令和４年度 第２回松田町地域公共交通会議　議事録

日　時　令和４年11月15日（火）　15：00～16：45

場　所　生涯学習センター　展示ホール

出席者　構成員：別紙「出席者名簿」のとおり

※24名出席（うち代理３名）・７名欠席

事務局：政策推進課

鈴木、鍵和田、渡邉、市川（まちづくりコーディネーター）

【会議次第】

１　開会

２　副町長あいさつ

３　委員紹介

４　会長あいさつ

５　協議事項

　（１）松田町地域公共交通計画における基本理念・基本方針（案）について

６　報告事項

　（１）町民アンケート調査の結果について

　（２）松田町地域公共交通計画策定に係る調査・協議スケジュールについて

７　その他

８　閉会

【会議概要】

１　開会

　・事務局より開会のあいさつ。

・委嘱状を机上配布とする旨説明。

２　副町長あいさつ

　・地域公共交通は地方の市町村にとっては深刻な課題となっており、本町では、路線バスの運行が重要な課題となっている。

　・高齢者の自動車事故が増えており、本町でも高齢化率が約35％と高く、免許返納も多くなってくるため、公共交通の充実がより切実な問題になってくる。

　・第６次総合計画で目指す町の将来像を実現するため、公共交通計画もそれぞれの立場から、ご意見をいただきたい。

３　委員紹介

　・委員自己紹介

　・事務局、まちづくりコーディネーター、ＳＤＫ総合研究所　自己紹介

４　会長あいさつ

　・第１回会議は書面会議となったが、第２回の地域公共交通会議は対面で会議ができることを大変喜んでいる。

　・地域公共交通会議の意義やあり方については、田代副町長や事務局からも詳しく説明があったので、これからすぐに会議に入らせていただく。

　・皆さまからの活発な議論をいただきながら、議事進行を進めていきたいと思う。

　●事務局

・委員31名のうち24名出席しており、会議が成立していることを事務局より報告。※欠席者７名については委任状の提出あり。

６　報告事項

　・次第の順序が入れ替わるが、先にアンケート調査の結果について説明する。

・町民アンケート調査は、15歳以上の町民2,500人を対象に実施し、1,150票の回答、回収率は、46.0％となる。調査項目は資料のとおり。

・自治会アンケート調査は、町民アンケート調査を補強することや自治会別の現状や課題を把握することを目的に町内の全自治会長を対象に実施した。

・詳細なアンケート結果報告書は100ページ以上あるので、ここでは配布していないが、ご希望の方は事務局までご連絡してもらいたい。

●事務局

　　～資料２を基に「町民アンケート調査結果」について説明～

　　〇委員

　　　・免許を保有していない方、自家用車を運転していない方は、買い物や通院にはどのような交通手段を使っているのか。

　　　・今の質問について、どの家でも車を２台、３台所有しているので、家族が代わりに運転しているのが８～９割だと思う。他の地域（自治会）でも同じようなものだと思う。

　　〇委員

　　　・バスの利用について神山では４割が「とても不便だと思う」と回答しているが、私の認識の中ではほとんどの人が諦めて他の交通手段を考えているイメージ。神山地区の、アンケートの母数と無回答の人数を教えてもらいたい。

　　●事務局

　　　・無回答を除く回答母数は65、このうち「とても不便だと思う」の回答は26で40.0％。ここでは無回答は含めず、回答のあった評価だけで比較を行っている。

　　〇委員

・東名高速道路北側の寄地区のサンプル数を多くとるようにしたとのことだが、寄地区では何名が回答しているのか。

　　●事務局

・回答数は、寄地区は314票で全体の27.3％、神山が126票で11.0％、松田惣領が372票で32.3％、松田庶子が287票で25.0％である。

〇古舘会長

　・質問等は無いようなので、次の議題である「基本理念・基本方針（案）」について説明して下さい。

６　協議事項

　　・次に、協議事項の資料について説明する。

（１）松田町地域公共交通における基本理念・基本方針（案）について

●事務局

～資料１を基に「松田町地域公共交通における基本理念・基本方針（案）」について説明～

〇委員

　　　・この資料がそのまま計画の素案ということではなくて、今回の会議で意見を集めて計画を作るというイメージで良いのか。１ページの他都市への通勤・通学者の比率が第１回書面会議の数値と変わっているところなどもある。

注：第１回の時点では平成27年国勢調査、今回は令和２年国勢調査のデータが新たに公表されたので最新の数値に差し替えている。

　　●事務局

　　　・今回のアンケート調査結果の分析を踏まえて、基本理念・基本方針を叩き台という形で作っている。来年度、実証実験を行っていきたいと考えている中で、これから最終的な調整を公共交通事業者も含めて関係機関と図りながら行っていきたい。

　　〇委員

　　　・公共交通計画としては、地域の概況、計画の目的、目的を達成するための事業、その後どのようにフォローアップしていくか、最後に参考資料というイメージであるが、それでよいか。

　　●事務局

　　　・次回の会議の中で、次のステップに踏み込んだ資料を作っていき、来年度最終的な計画としていく。そのうえでパブリックコメントも実施することを予定している。

　　〇委員

　　　・３ページの表で、新モビリティとしてデマンド交通を有効に使っていこうということだが、デメリットの中に「利用者によっては抵抗感を持つ人がいる」とあるが、これは事前予約とか登録に対する抵抗感であると思うのだが、抵抗感がデメリットにつながらないのではないかと思っている。登録にしても事前予約にしても高齢者を対象としているわけだから簡略化するとかすれば抵抗感は少なくなり、デメリットとは言えないのではないか。

　　　・デメリットとしては、狭い道を走れるようにワゴン車とかにした場合、利用者が増えたら対応できなくなる方がデメリットなのではないかと考えている。

　　　・６ページのところで、新松田駅を再開発と併せて交通結節機能の強化を図るとしているが、この公共交通計画の計画期間に再開発は間に合わないと思うので、ここでは駅前整備を前向きに取り組んでいかなければいけないという書き方にした方がよいと思う。

　　●事務局

　　　・デメリットについては整理する。

　　〇委員（松田町まちづくり課長）

・駅前再開発については、当初予定に沿って進んでいるが、これから地権者同意や組合設置に向けて正念場となるので、成功ありきの形で書くのではなく、連携して行っていくことによってさらなる効果がでるので駅前再開発を促すように書いてもらえればよい。

〇古舘会長

・そのあたりの書き方を検討してもらいたい。

　　●事務局

・デメリットの抵抗感については、今後導入を検討するＡＩデマンドになると予約の段階で電話予約かアプリ操作となると思うので、アプリ操作については事前のトレーニングが必要になると思われる。その辺りも含めて抵抗感があるということで書いている。

・駅前の交通結節拠点については、再開発と連動しているわけではなく、駅前が起終点の拠点ということである。広域的な移動でも乗り継ぎの拠点となる。

〇委員

　・３ページのところに前回の実証実験を行った結果、何が良くなかったのか、問題だったのかが判らない。その解決策としてこういうことをするというのは判るが、このページに書くのではなく、実施事業をどのようにするかという、もっと後段の方に移した方が良いのではないかと思う。

　・新モビリティの比較の表について、これは本当にメリット・デメリットなのかわからない。この表については一旦白紙に戻してもらって、入れるのであれば検討してもらいたい。

　・６ページの交通結節点について、駅は非常に大切なものであるが、今回の公共交通会議に小田急電鉄は入っていないが、まちづくり系の協議会の中に小田急電鉄は入っていて情報提供していると考えてよいのか確認したい。

〇古舘会長

・メリット・デメリットのところはどのようにするか検討してもらいたい。

　・小田急電鉄との連携はどうなっているのか教えてもらいたい。

〇委員（松田町まちづくり課長）

・「新松田駅周辺地域まちづくり協議会」を立ち上げて、その協議会の中に小田急電鉄も入っている。オブザーバーとしてＪＲ東海も入っている。

〇古舘会長

・今回の会議では、基本理念と計画の目標について承認してもらえるかについて意見をもらいたい。

〇委員

　・基本理念の「誰もが笑顔で行きたい所へ行けるまち　松田」だと、イメージとしてデマンドバスが20台30台動き回って、将来的には自動車を使わないで行きたい所へ行けるよというイメージを感じてしまう。「交通弱者が行きたい所へ行ける」ということに焦点を絞った方がより現実味と必要性が出てくるのではないかと思う。

　・最後にデマンドバス１台導入したというだけの計画で終わらないように考えてもらいたい。

●事務局

　・基本理念は、デマンドバスだけを捉えて設定しているのではなく、バス、タクシー、鉄道といったすべての公共交通手段を総動員した中で、足りない部分にデマンドバスを導入して、交通が不便な地区でも笑顔でどこにでも行けるようにしていきたいという大きな意味合いでの表現としている。

〇古舘会長

　　　・基本理念については承認していただいたこととして進めます。

　　〇委員

　　　・基本方針について、町の計画の中で近隣市町との連携というのは担保が取れているのかが気になるのと、それと関連して７ページの図でCゾーン、Dゾーンは他の市町になると思うのでここまで書いていいのか気になった。

　　　・目標３について、国・県等の支援制度の活用が目標となっているが、国・県の支援制度はその時々によって変わるものなので、これを目標とするのは交通計画としてはどうなのかと思う。

　　〇古舘会長

　　　・大きな指摘があったと思うが、他市町村との連携は話し合っているのかとか、図７の図などについては検討してもらいたい。

　　●事務局

　　　・交通弱者の救済については念頭に置いている。

　　　・町内の交通移動の特徴としては、買い物等は隣接市町へ行くことが多く、そのような実情からも近隣市町との連携は重要となっており、提示させてもらっている。

〇古舘会長

　　　・基本的な方向はこのような形で進むということで承認していただいたこととして進めます。

　　　・修正するところは事務局で検討してもらいたい。

５　報告事項

　　・報告事項（２）のスケジュールについて説明する。

（１）松田町地域公共交通計画策定に係る調査・協議スケジュールについて

●事務局

～資料３を基に「松田町地域公共交通計画策定に係る調査・協議スケジュール」について説明～

〇古舘会長

・第３回会議は、１月27日の午後３時から開催とする。

・次回は、実証実験についての協議を予定する。

・今回の意見を踏まえ「基本理念・基本方針」を修正してもらい改めて協議する。

７　その他

〇富士急湘南バス株式会社

～当日配布資料を基に説明～

　　〇委員

　　　・非常に赤字で経営が厳しいという中で、資料の中にある網掛けの減便対象となっているものは、将来的に富士急さんでは減便したいという意向なのか。

　　〇富士急湘南バス株式会社

　　　・乗車人員の資料を添付しているが、乗車人数が少ないところのダイヤを対象としている。

　　〇委員

　　　・損益分岐点を下回っているダイヤを減便したいということか。

　　〇富士急湘南バス株式会社

　　　・現状では、今のダイヤを維持するのが困難な状況となっている。

　　〇委員

　　　・この減便を見ると現状の半分以下になる。ダイヤを維持するには応分の補助金をお願いしたいということなので、是非、町の方と調整してもらい、現状のダイヤを維持できるようになんとかしてもらいたい。

〇古舘会長

　　　・私も事前にこの話は聞いていなかったので、突然減便の話を聞いて大変驚いている。

　　　・会長として事前に聴いておきたい話であったし、ここで議論する、承認するという話ではないということで承っておく。

　　〇古舘会長

　　　・足柄広域新モビリティサービス推進協議会の杉本会長と梶田副会長が参加しているので、今日の会議の感想・意見をお聞かせ願いたい。

　　〇杉本会長（足柄広域新モビリティサービス推進協議会）

　　　・基本理念・基本方針については事前に資料をいただいていたので把握している。

　　　・人口減少で交通問題は厳しい状況だと思う。何とか問題解決していこうとする中で新モビリティが出てきている。他の市町村でも検討しており、是非、松田の問題解決に新しいシステムを組み入れてもらいたい。

　　　・我々の方でもそのような方向に進めるように取り組んでいきたい。

〇梶田副会長（足柄広域新モビリティサービス推進協議会）

　　　・人口減少があって公共交通は厳しい状況だが、鉄道、バス、タクシー様々な公共交通を検証して、その中に新モビリティを入れたいというのはいいと思う。

　　〇古舘会長

　　　・全体を通して皆さん何かあるか。ないようなら議事を終わらせていただく。

　　●事務局

　　　・最後に閉会の挨拶を副会長の平原副会長にお願いする。

８　閉会（平原副会長）

　・これをもちまして第二回公共交通会議を閉会とします。

以上